

県立美術館の活性化案（第三次答申素案） 概要

■ 県立美術館の活性化の考え方

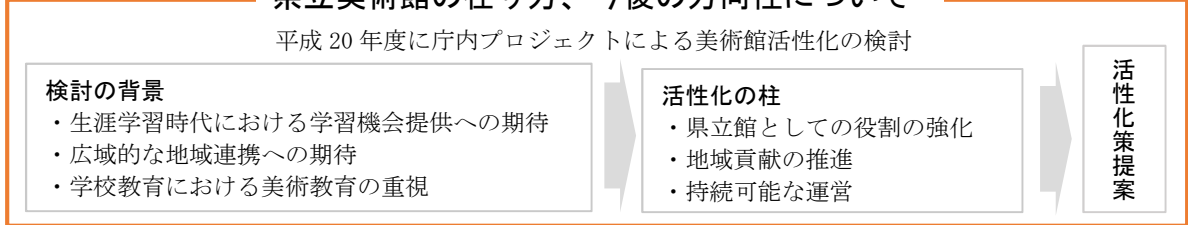
県立美術館の設置目的

本県文化の伝統を正しく理解し、その基盤の上に新たな文化を創造していくために、郷土における先人の偉大な作品に直接触れる機会を与えるとともに、造形美術の創作ならびに鑑賞を通し、美術愛好の気風を醸成して県民芸術文化向上に寄与するため、常に芸術活動を行ない、しかも本県独特な性格をもつ美術館を設置する。(昭和 49 年開館)

34 年経過

県立美術館の在り方、今後の方向性について

平成 20 年度に庁内プロジェクトによる美術館活性化の検討



検討の背景

- ・生涯学習時代における学習機会提供への期待
- ・広域的な地域連携への期待
- ・学校教育における美術教育の重視

活性化の柱

- ・県立館としての役割の強化
- ・地域貢献の推進
- ・持続可能な運営

活性化策提案

12 年経過

提案された活性化策は、施設改修等を伴うもの以外は、実施あるいは検討中
 少子高齢化や県民の美術へのニーズの多様化などが進行

県立美術館の設置目的に鑑み、県民に美術作品鑑賞の機会と創作活動の場を提供する美術館としての県民満足度の向上という観点から活性化を提案する

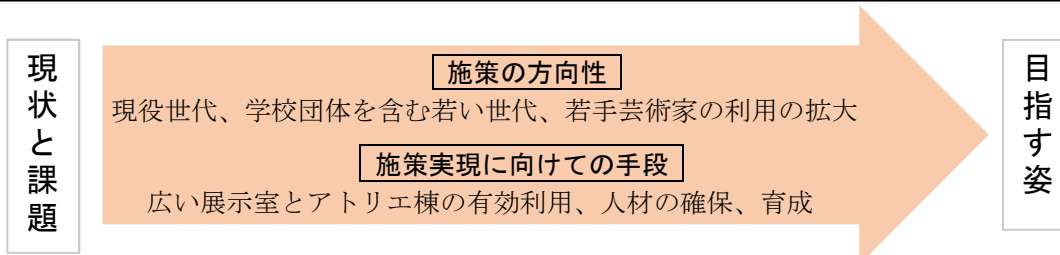
■ 県立美術館の現状と課題

区分	現状	課題
基本活動 ・調査・研究、作品収集・保管 ・展示	<ul style="list-style-type: none"> ・浅井忠等全国に誇れる作品群を収蔵 ・現代美術、若手作家の研究が不十分 ・収蔵能力が限界、作品の一部が劣化 ・年 1 回の企画展(特別展)を実施 ・年 1 回の移動美術館を実施 ・年間入場者数は約 10 万人 ・観覧者が 65 歳以上の高齢者に偏る 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来のテーマに加え、現代美術等、多様化する美術分野に対応した調査・研究の拡充 ・収蔵作品の更なる活用のための保管・管理体制の整備 ・入場者数の伸び悩みと年齢層の偏りの解消
支援活動 ・美術団体 ・学校教育 ・県民の生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・美術団体に展示室を提供しているが、その展示室には、活用の余地 ・種々の学校支援事業を実施するが、学校団体の来館利用が少ない ・障害者等の支援が不十分 ・創作活動の場アトリエ棟に活用の余地 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体用展示室・アトリエ棟の更なる活用による新規団体、若手作家等の利用拡大 ・学校団体利用の拡大 ・子育て世代、障害者等による利用拡大
連携 ・大学等 ・博物館等 ・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・県内大学と連携 ・博物館等との連携は資料借用 ・地域との継続的な連携関係は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等との連携の拡充と連携先の拡大 ・博物館などの社会教育施設との連携強化 ・地域の企業・団体との積極的な連携による地域振興への寄与
運営 ・人材育成や附帯施設の運営 ・県民ニーズの把握 ・広報 ・外部財源	<ul style="list-style-type: none"> ・職種によって管理、運営主体が異なり、職員の資質向上やサービス充実の取組みは、管理、運営主体毎に実施 ・事業への県民のニーズ反映が不十分 ・事業の周知が不足 ・競争的外部資金獲得のみが外部財源 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民満足度を高める人材育成・確保 ・県民ニーズに基づいた企画力の向上 ・広報力の強化 ・外部財源の確保

■ 県立美術館の目指す姿と活性化策

○目指す姿

「みる・かたる・つくる」の原点を踏まえ、伝統を継承しながらも、新たな取組にもチャレンジします。そして、幅広い年齢層の県民に繰り返し利用してもらえる美術館を目指します。



○「目指す姿」実現のための活性化策

① 基本活動（調査・研究、収集・保管、展示）

良質な文化芸術を県民に提供するとともに、現代の文化芸術を育てる「美術に関する知の創造拠点」として機能する

- ・ 幅広い美術分野に対応する調査・研究 — 従来テーマに現代芸術、若手作家等を加えた調査・研究の充実
- ・ 美術作品の収集・管理体制の充実 — 作品収集と作品の保管・管理の充実
- ・ 良質な美術に触れる機会の充実 — 展示室の特徴を活かした幅広いテーマの展示、移動美術館の拡充、展示作品の撮影許可による県民の作品鑑賞機会の充実

② 支援活動（美術団体、学校団体、県民の生涯学習）

多くの県民に文化芸術活動を行う機会と場を提供し、その活動を支援する

- ・ 若手作家の活動支援 — 千葉県ゆかりの若手作家への作品発表の機会と創作の場の提供
- ・ 美術団体への支援と新規利用団体の開拓 — 展示室の空き期間等を活用した新規団体の開拓とアトリエ棟の開放
- ・ 学校教員や学校団体利用の促進 — 学校向けプログラムの改善と教員への研修の充実
- ・ 子育て世代の支援 — 親子で参加できる鑑賞・創作プログラムの企画・実施
- ・ バリアフリーな生涯学習支援 — 障害者等の美術鑑賞・創作プログラムの企画・実施

③ 連携（大学等、美術館・博物館等、地域）

幅広い連携により、新たな価値を創造する

- ・ 大学等との連携 — 連携事業の充実と新たな連携先の開拓
- ・ 博物館・図書館・公民館等文化施設との連携 — 文化資源の相互活用促進
- ・ 地域振興としての連携 — 地域との積極的な連携による地域的シンボルとしての役割

④ 運営（人材育成、付帯施設、ニーズ把握と企画力、広報、財源）

- ・ 魅力向上につながる人材確保、育成 — 館運営に関わる全職種の職員及びボランティアにおける技能向上と連携強化
- ・ 憩いとにぎわいの場の創出 — レストラン等、アメニティー部門の充実
- ・ 県民ニーズの把握と企画力の強化 — 調査・研究の成果と「対話型事業」の導入など、利用者ニーズを反映した事業の企画
- ・ 広報力の強化 — 美術館のイメージを確立するホームページの改善、SNS などによる魅力的な情報発信
- ・ 多様な財源の開拓 — 競争的資金への積極的応募等、外部資金獲得を含む財源の確保

■ 中・長期的な課題（引き続き、検討・研究すべき課題）

- ・ 収蔵庫の狭溢化への対策
- ・ 団体展の利便性を高める展示室構造への施設整備
- ・ 館庭の整備による地域活性化への貢献
- ・ レストラン、ミュージアムショップ充実のための施設整備
- ・ 料金体系の検討